

令和7年度 学校自己評価システムシート（大妻嵐山中学校・高等学校）

| | | | | | |
|-------------------------|---|-----------------------|--|--|---|
| 目指す 学校像 スクールミッション | ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校 地域との連携の下で、学校社会貢献活動を推進する社会的価値を目指す学校 ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶を目指す学校 校訓「恥を知れ」の下で、自らを厳しく律し、自立した女性を育成する学校” | 目指す生徒像 アドミッションポリシー | ①自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性 ②自らを厳しく律し、広い教養を備え、他を思いやる共感力と高い志を持つ女性 | 重点目標 グラデュエーションポリシー （育成を目指す資質・能力に関する方針） | ①未来を生き抜く「探究する力」 ②未来を生き抜く「表現する力」 ③未来を生き抜く「感じる力」 ④未来を生き抜く「自ら学ぶ力」 |
|-------------------------|---|-----------------------|--|--|---|

達成度 Aほぼ達成（8割以上）・B概ね達成（6割以上）・C変化の兆し（4割以上）・D不十分（4割未満）

| 番 | 現状と課題 | 目標 | 具体的方策 | 達成度 | 達成状況及び次年度への課題 |
|---------------------------------------|--|--|--|-----|---------------|
| I 入 試 広 報 | ①中学入試について 昨年度に比べ、出願者数は減少（777名→673名）したものの、入学者は増加し55名（目標達成度92%）となった。入学者60名という目標達成のため、さらなる工夫、改善が必要である。 ②高校入試について 昨年度に比べ、出願者数はほぼ横ばい（140名→142名）であるが、入学者が減少し、内部進学者と合わせ103名（目標達成度69%）となった。内部進学者数の確保とともに、高校入学者数の増加のため、さらなる工夫、改善が必要である。 | ①中学入試 ・入学者数：60名 ・学校説明会等への参加者数：170名 ・学び力エキスパート入試出願者数：80名 ・出願者総数：1,000名 ②高校入試 ・入学者数：150名 ・高校選択セミナー参加者数：350組 ・学校説明会等への参加者数：500名 ・単願受験者数：100名、併願受験者数100名 | ①学び力エキスパート入試の個別面談参加者、受験者の増加 ①英語を活用した入試等、新たな入試方法の導塾との協力体制のさらなる強化 ②外部会場でのセミナー開催のさらなる充実 ②大妻女子大学、他大学との高大連携のさらなる充実（大妻女子大学 オンデマンド講義への参加、高大連携協定の推進等） ②地域密着型・個別指導型等の塾との協力体制のさらなる強化 ②大妻嵐山中学校生徒の高校内部進学率向上 ①②校内イベントの内容充実とイベント参加者、来校者の増加 ①②ホームページ、SNS等の活用による情報発信のさらなる強化 | | |
| II 進 路 ・ 学 習 指 導 | ①生徒の進路希望を実現させる取り組みを継続する。 R6年度卒業生は、名古屋大、お茶の水女子大等の国公立大に7名、早慶上理・GMARCHに16名、大妻女子大に31名、薬学系大学に7名、看護医療系大学に6名が合格するなど、多くの生徒の進路希望の実現を達成している。 ②キャリア教育のさらなる充実と強化が課題である。 ③進路希望実現に対応できる学力等の向上が必要である。 ④国際理解教育「大妻グローバル」、科学的思考力を育む「大妻サイエンス」のさらなる強化が求められる。 | ①進路希望の実現 （国公立7名、早慶上理ICU5名、医歯薬5名、GMARCH15名、大妻女子大50名等） ②コースの特色を生かしたキャリア学習の展開 ②将来の在り方を考えるキャリア教育の推進 ③授業及び課外活動を通じた学力の向上 ④国際理解教育の推進とその基盤となる英語コミュニケーション力の向上 ④科学的探究プロセス（課題発見→仮説設定・情報収集・実験→考察・整理→表現・発表）習得 | ①②「高大連携プログラム」。大妻女子大、東京理科大、埼玉医大、女子栄養大等による連続出張講義を課外活動として実施（新規）。 ②「キャリア教育プログラム」。様々な職業の外部講師による連続講演を課外活動として実施（新規）。 ①②「m_r tokyo Girls」大妻女子大学と連携したPBL（課題解決学習）。 ①②「総合進学サポートプログラム」。総合型選抜や公募推薦等の対策として志望理由書、小論文、面接に関する講師による連続講義。 ①③「特進SS縦割り合宿」。ハイクラス勉強合宿。 ①③「サマー、ウインターゼミ」。長期休業中における授業型補習。 ②③「嵐山個別塾」。卒業生メンターによる自習サポート、進路相談。 ④英語劇、英語プレゼン、海外研修、海外修学旅行、英検対策。 ④オオムラサキ飼育と観察（中学）、みつばちプロジェクト（高校） | | |
| III 生 徒 指 導 | ①「大妻の精神上質な学校生活」を継続的に推進することが求められる。 ②単なる満足度ではなく、学校に対するエンゲージメント（「深い関係性や関わり」School Engagement 学校に対する愛着、愛校心）をより一層高める必要がある。 ③活性化しつつある生徒会活動及び部活動において、さらなる高みを目指すことが課題である。 | ①礼法、道徳教育の充実 ②学校行事等を通じた「本校生であることの誇り」「大妻で学ぶプライド」の伸長 ③生徒会活動のさらなる活性化、部活動による人格形成と強化部を中心とした活動実績の向上 | ①外部講師による「論語講座」、「礼法指導」「着付け教室」「箏曲指導」。定期的な論語の素読。 ①外部講師による「コミュニケーションマナーアップ講座」、本校スクールカウンセラーによる「ソーシャルスキルアップ講座」（新規）。 ②③目標に向かって協力することを学び、達成感を共有する体育祭、大妻祭（入場者目標3,000名）。 ②③生徒会と協力した卒業式「式歌」制定、各階ワークスペースの活用 ③授業及び部活動等の教育環境整備としての体育館空調設備の完備 | | |
| IV 社 会 貢 献 | ①単なる地域連携ではなく、「学校社会貢献活動 SSR=School Social Responsibility」として学校資源を地域社会に還元する。 ②上記により、「社会に貢献できる自立した女性」を育み、人間力（ヒューマンスキル）の向上をはかる必要がある。 | ①地域連携体制のさらなる整備、定着 ②社会貢献事業等への参加生徒の増加 | ①②「大妻嵐山チャレンジ『ボランティア』プログラム ・嵐山町ハイスクール議会 ・嵐山町社会福祉協議会「夏休みボランティア体験プログラム」 ・嵐山史跡の博物館「高校生ボランティア」 ・嵐山町生涯学習課「らんざん子ども大学」 ・埼玉県立小川げんきプラザ「イベント手伝いボランティア」 ・菅谷小学校学童保育室「支援員補助ボランティア」 | | |

